

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-149704  
 (43)Date of publication of application : 24.05.2002

(51)Int.Cl. G06F 17/30  
 G06F 17/21

(21)Application number : 2001-257366 (71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD  
 (22)Date of filing : 28.08.2001 (72)Inventor : YOSHIMURA YASUO  
 OGINO HIROYUKI

(30)Priority

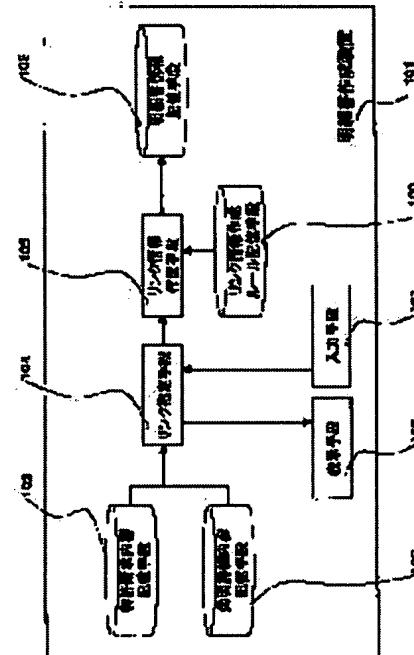
Priority number : 2000258645 Priority date : 29.08.2000 Priority country : JP

## (54) GENERATING METHOD, BROWSING METHOD, GENERATING DEVICE AND BROWSING DEVICE FOR SPECIFICATION DESCRIPTION

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide methods and devices for supporting patent work by efficiently generating and browsing a specification description through the electronic filing of patent official gazette.

**SOLUTION:** The devices are equipped with a patent claim contents storage means 102 which stores patent claim contents regarding the range of a patent claim, an invention detailed contents storage means 103 which stores invention detailed contents regarding the detailed explanation of invention, a link specifying means 104 which specifies the patent claim contents and invention detailed contents, a link information generating means 105 which generates the specified contents as relation link information, and a detailed statement information storage means 106 which stores the patent claim contents, invention detailed contents, and link information together.



### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号  
特開2002-149704  
(P2002-149704A)

(43)公開日 平成14年5月24日 (2002.5.24)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード(参考)
G 06 F 17/30	419 170 570	G 06 F 17/30	419 B 5 B 009 170 A 5 B 075
17/21		17/21	570 D

審査請求 未請求 請求項の数20 O L (全 20 頁)

(21)出願番号 特願2001-257366(P2001-257366)  
(22)出願日 平成13年8月28日(2001.8.28)  
(31)優先権主張番号 特願2000-258645(P2000-258645)  
(32)優先日 平成12年8月29日(2000.8.29)  
(33)優先権主張国 日本 (JP)

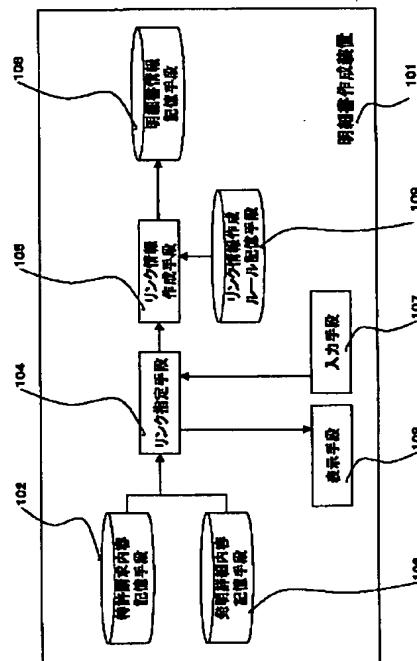
(71)出願人 000005821  
松下電器産業株式会社  
大阪府門真市大字門真1006番地  
(72)発明者 吉村 康男  
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内  
(72)発明者 荻野 弘之  
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内  
(74)代理人 100097445  
弁理士 岩橋 文雄 (外2名)  
Fターム(参考) 5B009 SA03 SA12 VA02  
5B075 ND03 ND36 UU40

(54)【発明の名称】 明細書作成方法、明細書閲覧方法、及び明細書作成装置、明細書閲覧装置

(57)【要約】

【課題】 特許公報の電子ファイル化に基づいて、明細書の作成および閲覧を効率的に行い特許業務を支援するための方法および装置を提供すること。

【解決手段】 特許請求の範囲に関する特許請求内容を記憶する特許請求内容記憶手段102と、発明の詳細説明に関する発明詳細内容を記憶する発明詳細内容記憶手段103と、特許請求内容と発明詳細内容とを指定するリンク指定手段104と、指定された内容を関連づけリンク情報として作成するリンク情報作成手段105と、特許請求内容と発明詳細内容とリンク情報を併せて記憶する明細書情報記憶手段106とを備える。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 コンピュータにより特許明細書の作成を行う明細書作成方法において、特許請求の範囲に関する特許請求内容と前記特許請求内容に関する発明の詳細説明に関する発明詳細内容とを関連づけてリンク情報として作成する手順と、前記特許請求内容と前記発明詳細内容と前記リンク情報を併せて記憶する手順を備えた明細書作成方法。

【請求項2】 リンク情報を生成するためのキーワードを入力する手順と、特許請求内容および／または発明詳細内容について前記キーワードを検索する手順と、検索した結果に基づいてリンク情報を生成する手順を備えた請求項1記載の明細書作成方法。

【請求項3】 コンピュータにより特許明細書の閲覧を行う明細書閲覧方法において、特許請求の範囲に関する特許請求内容および／または発明の詳細説明に関する発明詳細内容と、前記特許請求内容と前記発明詳細内容とを関連づけしたリンク情報を読み出す手順と、前記特許請求内容および／または前記発明詳細内容を表示するとともに、前記リンク情報の有無を表示して所望するリンク情報の選択を促す手順と、選択されたリンク情報に基づいて関連づけした特許請求内容および／または発明詳細内容を表示する手順を備えた明細書閲覧方法。

【請求項4】 特許明細書内のリンク情報を集計する手順と、集計した結果を用いて特許請求内容および／または発明詳細内容に対して必要とするリンク情報の有無を確認させる手順と、確認の結果を出力する手順とを備えた請求項1または2記載の明細書作成方法。

【請求項5】 特許明細書内のリンク情報を集計する手順と、集計した結果を用いて特許請求内容および／または発明詳細内容に対して必要とするリンク情報の有無を確認させる手順と、確認の結果を出力する手順とを備えた請求項3記載の明細書閲覧方法。

【請求項6】 特許明細書内のリンク情報を集計する手順と、集計した結果を用いて特許明細書の構成情報を作成する手順とを備えた請求項1または2記載の明細書作成方法。

【請求項7】 特許明細書内のリンク情報を集計する手順と、集計した結果を用いて特許明細書の構成情報を作成する手順とを備えた請求項3記載の明細書閲覧方法。

【請求項8】 コンピュータにより特許明細書の作成を行う明細書作成装置において、特許請求の範囲に関する特許請求内容と前記特許請求内容に関する発明の詳細説明に関する発明詳細内容とを関連づけてリンク情報として作成するリンク情報作成手段と、前記特許請求内容と前記発明詳細内容と前記リンク情報を併せて記憶する記憶手段を備えた明細書作成装置。

【請求項9】 リンク情報を生成するためのキーワードを入力するキーワード入力手段と、特許請求内容および／または発明詳細内容について前記キーワードを検索す

る検索手段と、検索した結果に基づいてリンク情報を生成するリンク情報生成手段を備えた請求項8記載の明細書作成装置。

【請求項10】 コンピュータにより特許明細書の閲覧を行う明細書閲覧装置において、特許請求の範囲に関する特許請求内容および／または発明の詳細説明に関する発明詳細内容と、前記特許請求内容と前記発明詳細内容とを関連づけしたリンク情報を読み出す読み出し手段と、前記特許請求内容および／または前記発明詳細内容を表示するとともに、前記リンク情報の有無を表示して所望するリンク情報の選択を促すリンク情報選択手段と、選択されたリンク情報に基づいて関連づけした特許請求内容および／または発明詳細内容を表示する表示手段を備えた明細書閲覧装置。

【請求項11】 特許明細書内のリンク情報を集計するリンク情報集計手段と、集計した結果を用いて特許請求内容および／または発明詳細内容に対して必要とするリンク情報の有無を確認させるリンク情報確認手段と、確認の結果を出力するリンク情報出力手段とを備えた請求項8または9記載の明細書作成装置。

【請求項12】 特許明細書内のリンク情報を集計するリンク情報集計手段と、集計した結果を用いて特許請求内容および／または発明詳細内容に対して必要とするリンク情報の有無を確認させるリンク情報確認手段と、確認の結果を出力するリンク情報出力手段とを備えた請求項10記載の明細書閲覧装置。

【請求項13】 特許明細書内のリンク情報を集計するリンク情報集計手段と、集計した結果を用いて特許明細書の構成情報を作成する構成情報作成手段とを備えた請求項8または9記載の明細書作成装置。

【請求項14】 特許明細書内のリンク情報を集計するリンク情報集計手段と、集計した結果を用いて特許明細書の構成情報を作成する構成情報作成手段とを備えた請求項10記載の明細書閲覧装置。

【請求項15】 コンピュータにより特許明細書を扱う電子ファイルにおいて、特許請求の範囲に関する特許請求内容および発明の詳細説明に関する発明詳細内容と、前記特許請求内容と前記発明詳細内容とを関連づけしたリンク情報を備えた電子ファイル。

【請求項16】 リンク情報は、コンテンツ記述言語によって記述された請求項15記載の電子ファイル。

【請求項17】 請求項15記載の電子ファイルを複数記憶する記憶媒体、あるいは記憶装置。

【請求項18】 請求項15記載の電子ファイルを送信または受信する送受信装置。

【請求項19】 請求項1～18のいずれか1項をコンピュータに実行させるためのプログラムおよび／またはデータを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項20】 請求項1～18のいずれか1項をコン

ピュータに実行させるためのプログラムおよび／またはデータ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、特許の明細書作成方法、明細書閲覧方法、及び明細書作成装置、明細書閲覧装置に関するものであり、特に特許公報の電子ファイル化に基づいて、明細書の作成および閲覧を効率的に行い特許業務を支援するための方法および装置である。

【0002】

【従来の技術】コンピュータにより特許明細書の作成を行う場合、ワードプロセッサ等を用いて明細書の文書を電子ファイル化している。また、コンピュータにより特許明細書の閲覧を行う場合、ワードプロセッサを用いて電子ファイル化した文章を読み込み表示している。あるいは、インターネットやデータベースシステムを用いて、閲覧用ソフトウェアで電子ファイル化した文章を読み込み表示している。

【0003】コンピュータにより特許明細書を効率的に作成する従来例として、特開2000-90083号公報に開示されているものがある。

【0004】公報によれば、図21に示すように、明細書文章を格納する文書格納部2101と、文章中から文字列を抽出するための文字列ルールを保持する文字列抽出ルール保持部2102と、文書格納部2101で格納されている文章に文字列ルールを適用して文字列を抽出する文字列抽出部2103と、符号を添付するための符号ルールを保持する符号添付ルール保持部2104と、文字列抽出部2103で抽出した文字列に対して符号添付ルールを適用して符号を添付する符号添付部2105と、符号添付部2105で符号を添付した文字列を含む文章を出力する文書出力部2106とを有する。

【0005】以上の構成において、文字列ルールと符号添付ルールとを関連づけることにより、明細書文章中の「〇〇手段」を抽出し、自動的に図面参照番号（符号）を付与すること等が記載されており、明細書において発明構成要素の符号の整合性をとることが容易にできるものであった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】近年、特許公報の電子ファイル化が進み、コンピュータのモニター上で特許明細書を作成することが増えてきている。その場合、特許請求の範囲に関する特許請求内容と、特許請求内容に関連して発明の詳細説明に関する発明詳細内容とをモニター上に効率よく表示することが困難であり、両者を参照して明細書作成する時に記入もれや記載ミスをもたらす要因となっている。例えば、請求内容と発明詳細内容とで用語が異なっている、発明詳細内容の文章と図面とで参照番号が一致していない等である。

【0007】また、特許請求内容とその発明の詳細説明

に関する発明詳細内容とをモニター上に効率よく表示することが困難であるため、特許明細書を作成する時に論理的思考や説明を行なう上で弊害となる恐れがある。例えば、請求内容が発明詳細内容に説明されていない、請求内容と異なる趣旨のことが発明詳細内容に記載されている等の事例がある。

【0008】上記従来例としてあげた特開2000-90083号公報では、発明構成要素の符号の整合性をとるものである。しかしながら、符号の他にも記入もれや記入ミスがないか、論理的な説明となっているかといった事項に発明者は注意を払う必要があり、それを支援するような明細書作成方法や装置が望まれている。

【0009】一方、コンピュータのモニター上で特許明細書を閲覧することが増えてきている。その場合、特許請求の範囲に関する特許請求内容と、特許請求内容に関連して発明の詳細説明に関する発明詳細内容とをモニター上に効率よく表示することが困難であり、両者を参照して内容を理解する時に煩わしさをもたらす要因となっている。例えば、近年、請求項数の増加にともない特許明細書の頁数の増加傾向がある。特許の各請求内容とその発明の詳細説明に関する発明詳細内容との関連箇所を捜し両者を結びづけて理解することが容易でなく、それを支援するような明細書閲覧方法や装置が望まれている。

【0010】本発明は、これらの課題を解決するもので、特許公報の電子ファイル化に基づいて、特許明細書の作成および閲覧を効率的に行い特許業務を支援することを目的としている。

【0011】

【課題を解決するための手段】前記従来の課題を解決するために、本発明は、コンピュータにより特許明細書の作成を行う明細書作成方法において、特許請求の範囲に関する特許請求内容と特許請求内容に関連して発明の詳細説明に関する発明詳細内容とを関連づけてリンク情報として作成する手順と、特許請求内容と発明詳細内容とリンク情報を併せて記憶する手順を備えたものである。そして、リンク情報を作成する際、特許請求内容と発明詳細内容とを参照・確認することが可能で、論理的な明細書を作成することを支援することができる。加えて、特許明細書と併せてリンク情報を記憶することで、後にリンク情報を活用して明細書を閲覧することができる。

【0012】

【発明の実施の形態】請求項1に記載の発明は、特許請求の範囲に関する特許請求内容と特許請求内容に関連して発明の詳細説明に関する発明詳細内容とを関連づけてリンク情報として作成する手順と、特許請求内容と発明詳細内容とリンク情報を併せて記憶する手順を備えた明細書作成方法である。そして、リンク情報を作成する際、特許請求内容と発明詳細内容とを参照・確認するこ

とが容易となり明細書を論理的に作成することを支援する。加えて、リンク情報を記憶することで、後に特許明細書と併せてリンク情報を活用して明細書を効率的に閲覧することができる。

【0013】請求項2に記載の発明は、リンク情報を作成するためのキーワードを入力する手順と、特許請求内容および／または発明詳細内容についてキーワードを検索する手順と、検索した結果に基づいてリンク情報を生成する手順を備えた明細書作成方法である。そして、リンク情報を必要とするキーワードを入力し、キーワード検索の結果に基づいてリンク情報を生成することで、必要十分なリンク情報を効率的に生成することができる。

【0014】請求項3に記載の発明は、特許請求の範囲に関する特許請求内容および／または発明の詳細説明に関する発明詳細内容と、特許請求内容と発明詳細内容とを関連づけしたリンク情報を読み出す手順と、特許請求内容および／または発明詳細内容を表示するとともに、リンク情報の有無を表示して所望するリンク情報の選択を促す手順と、選択されたリンク情報に基づいて関連づけした特許請求内容および／または発明詳細内容を表示する手順を備えた明細書閲覧方法である。そして、読み出したリンク情報に基づき、関連づけされた特許請求内容と発明詳細内容から所望の部分を参照することができる。

【0015】請求項4に記載の発明は、特許明細書内のリンク情報を集計する手順と、集計した結果を用いて特許請求内容および／または発明詳細内容に対して必要とするリンク情報の有無を確認させる手順と、確認の結果を出力する手順とを備えた明細書作成方法である。そして、特許作成時に明細書内で必要とするリンク情報が揃っていることを容易に確認でき、リンク情報の欠落を防ぐことができる。

【0016】請求項5に記載の発明は、特許明細書内のリンク情報を集計する手順と、集計した結果を用いて特許請求内容および／または発明詳細内容に対して必要とするリンク情報の有無を確認させる手順と、確認の結果を出力する手順とを備えた明細書閲覧方法である。そして、特許閲覧時に明細書内で必要とするリンク情報が揃っていることを容易に確認でき、リンク情報の欠落を防ぐことができる。

【0017】請求項6に記載の発明は、特許明細書内のリンク情報を集計する手順と、集計した結果を用いて特許明細書の構成情報を作成する手順とを備えた明細書作成方法である。そして、リンク情報から明細書の構成情報を作成するので、特許作成時に明細書の請求項の構成等を容易に確認でき、明細書を効率的に作成・確認することができる。

【0018】請求項7に記載の発明は、特許明細書内のリンク情報を集計する手順と、集計した結果を用いて特許明細書の構成情報を作成する手順とを備えた明細書閲

覧方法である。そして、リンク情報から明細書の構成情報を作成するので、特許閲覧時に明細書の請求項の構成等を容易に確認でき、明細書を効率的に閲覧・確認することができる。

【0019】請求項8に記載の発明は、特許請求の範囲に関する特許請求内容と特許請求内容に関する発明の詳細説明に関する発明詳細内容とを関連づけリンク情報をとして作成するリンク情報作成手段と、特許請求内容と発明詳細内容とリンク情報を併せて記憶する記憶手段を備えた明細書作成装置である。そして、リンク情報を作成する際、特許請求内容と発明詳細内容とを参照・確認することができるより明細書を論理的に作成することを支援する。加えて、特許明細書と併せてリンク情報を記憶することで、後にリンク情報を活用して明細書を効率的に閲覧することができる。

【0020】請求項9に記載の発明は、リンク情報を作成するためのキーワードを入力するキーワード入力手段と、特許請求内容および／または発明詳細内容についてキーワードを検索する検索手段と、検索した結果に基づいてリンク情報を生成するリンク情報生成手段を備えた明細書作成装置である。そして、リンク情報を必要とするキーワードを入力し、キーワード検索の結果に基づいてリンク情報を生成することで、必要十分なリンク情報を効率的に生成することができる。

【0021】請求項10に記載の発明は、特許請求の範囲に関する特許請求内容および／または発明の詳細説明に関する発明詳細内容と、特許請求内容と発明詳細内容とを関連づけしたリンク情報を読み出す読み出し手段と、特許請求内容および／または発明詳細内容を表示するとともに、リンク情報の有無を表示して所望するリンク情報の選択を促すリンク情報選択手段と、選択されたリンク情報に基づいて関連づけした特許請求内容および／または発明詳細内容を表示する表示手段を備えた明細書閲覧装置である。そして、読み出したリンク情報に基づき、関連づけされた特許請求内容と発明詳細内容から所望の部分を参照することができる。

【0022】請求項11に記載の発明は、特許明細書内のリンク情報を集計するリンク情報集計手段と、集計した結果を用いて特許請求内容および／または発明詳細内容に対して必要とするリンク情報の有無を確認させるリンク情報確認手段と、確認の結果を出力するリンク情報出力手段とを備えた明細書作成装置である。そして、特許作成時に明細書内で必要とするリンク情報が揃っていることを容易に確認でき、リンク情報の欠落を防ぐことができる。

【0023】請求項12に記載の発明は、特許明細書内のリンク情報を集計するリンク情報集計手段と、集計した結果を用いて特許請求内容および／または発明詳細内容に対して必要とするリンク情報の有無を確認させるリ

ンク情報確認手段と、確認の結果を出力するリンク情報出力手段とを備えた明細書閲覧装置である。そして、特許閲覧時に明細書内で必要とするリンク情報が揃っていることを容易に確認でき、リンク情報の欠落を防ぐことができる。

【0024】請求項13に記載の発明は、特許明細書内のリンク情報を集計するリンク情報集計手段と、集計した結果を用いて特許明細書の構成情報を作成する構成情報作成手段とを備えた明細書作成装置である。そして、リンク情報から明細書の構成情報を作成するので、特許作成時に明細書の請求項の構成等を容易に確認でき、明細書を効率的に作成・確認することができる。

【0025】請求項14に記載の発明は、特許明細書内のリンク情報を集計するリンク情報集計手段と、集計した結果を用いて特許明細書の構成情報を作成する構成情報作成手段とを備えた明細書閲覧装置である。そして、リンク情報から明細書の構成情報を作成するので、特許閲覧時に明細書の請求項の構成等を容易に確認でき、明細書を効率的に閲覧・確認することができる。

【0026】請求項15に記載の発明は、コンピュータにより特許明細書を扱う電子ファイルにおいて、特許請求の範囲に関する特許請求内容および発明の詳細説明に関する発明詳細内容と、特許請求内容と発明詳細内容とを関連づけしたリンク情報を備えた電子ファイルである。そして、特許明細書の電子ファイルにリンク情報を備えることにより、特許作成や閲覧時においてリンク情報を活用して効率的に作業することができる。

【0027】請求項16に記載の発明は、リンク情報はHTMLやXMLに代表されるコンテンツ記述言語によって記述された電子ファイルである。そして、インターネット等において標準的な記述言語を用いることで特許明細書を扱う電子ファイルの有用性を高めることができる。

【0028】請求項17に記載の発明は、リンク情報を備えた特許明細書の電子ファイルを複数記憶する記憶媒体、あるいは記憶装置である。そして、フロッピー（登録商標）ディスクや光磁気ディスク装置等でデータベースシステムを構成することができ特許明細書を扱う電子ファイルの有用性を高めることができる。

【0029】請求項18に記載の発明は、リンク情報を備えた特許明細書の電子ファイルを送信または受信する送受信装置である。そして、特許明細書を蓄積したサーバーと、それを作成・閲覧する端末装置とをネットワークや通信回線によって接続したデータベースシステムを構成することができ特許明細書を扱う電子ファイルの有用性を高めることができる。

【0030】請求項19に記載の発明は、上記をコンピュータに実行させるためのプログラムおよび／またはデータを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体である。そして、プログラムやデータを記録した記録媒体

を用いることでソフトウェアを汎用コンピュータにインストールする作業が容易にできる。

【0031】請求項20に記載の発明は、上記をコンピュータに実行させるためのプログラムおよび／またはデータである。そして、プログラムやデータを用いることで家庭や会社にある汎用コンピュータで容易に実現することができる。

【0032】

【実施例】以下に、本発明の実施例について、図1～図20を参照しながら説明する。

【0033】（実施例1）次に本発明の実施例1である明細書作成装置を説明する。

【0034】図1は、本発明の実施例1における明細書作成装置のブロック図、図2は明細書作成装置の動作方法を説明するためのフローチャート、図3は本発明の実施例1における明細書作成装置のモニタに表示する画面の一例を示す図である。

【0035】図1に示されるように、本実施例1の明細書作成装置101は、特許請求の範囲に関する特許請求内容を記憶する特許請求内容記憶手段102と、発明の詳細説明に関する発明詳細内容を記憶する発明詳細内容記憶手段103と、特許請求内容と発明詳細内容とを指定するリンク指定手段104と、指定された内容を関連づけリンク情報として作成するリンク情報作成手段105と、特許請求内容と発明詳細内容とリンク情報を併せて記憶する明細書情報記憶手段106とを備える。加えて、特許請求内容と発明詳細内容とを指定するための入力手段107（例えばキーボード、マウス）と、指定内容を表示して確認するための出力手段108（例えばモニタ）とをリンク指定手段104に接続する。また、リンク情報作成のためのルールや手順を記憶するリンク情報作成ルール記憶手段109をリンク情報作成手段105に接続する。

【0036】ここで、特許明細書を作成する時において、特許請求の範囲に関する特許請求内容と、その発明の詳細説明に関する発明詳細内容を記載した後、特許請求内容と発明詳細内容とを指定するリンク情報を作成するときの処理を説明する。

【0037】上記の構成によって、リンク情報を作成する際、特許請求内容と発明詳細内容とを参照・確認することが容易となり明細書を論理的に作成することを支援する。加えて、特許明細書と併せてリンク情報を記憶することで、後にリンク情報を活用して明細書を効率的に閲覧することができる。

【0038】この明細書作成装置の動作方法を説明すると、図2に示されるように、入力手段107と特許請求内容記憶手段102とにより特許請求の範囲に関する特許請求内容を入力または編集して（S201）、入力手段107と発明詳細内容記憶手段103とにより特許請求内容に関連して発明の詳細説明に関する発明詳細内容

を入力または編集して(S202)、リンク指定手段104によって特許請求内容と発明詳細内容との関連づけを作業者が指定して(S203)、リンク情報作成手段105によって指定された内容を関連づけてリンク情報として作成する(S204)。そして、表示手段108と入力手段107とリンク情報作成ルール記憶手段109とによってリンク情報の作成が完了したら否かを求める(S205)、完了であれば特許請求内容と発明詳細内容とリンク情報を併せて明細書情報記憶手段106に記憶する(S206)。

【0039】このとき、特許請求内容と発明詳細内容との関連づけを指定して(S203)、指定された内容を関連づけてリンク情報として作成する(S204)ときの表示手段108の表示画面例を図3に示す。ある特許明細書301の請求項1(302)に関してリンク情報を指定している。図中で「請求項1」302と「発明の実施の形態」303、「実施例」304、「発明の効果」305とで「請求項1」という語句を指定してリンク情報を生成する。図中、リンク情報を指定している語句には下線で示しているが、文字色を変えたり、文字フォントを変えたりして他の部分と区別できるようにしてもよい。

【0040】なお、図3では、「請求項」についてリンク情報を作成しているが、この他に「〇〇手段」や「図1」等についても関連した内容についてリンク情報を作成してもよい。「請求項」「〇〇手段」等の語句について、それぞれがリンク情報の作成を必須とする選択とするか等、リンク情報を作成するときに参照するルールや手順を図1中のリンク情報作成ルール記憶手段109に備える。

【0041】なお、特許請求内容記憶手段102、発明詳細内容記憶手段103、明細書情報記憶手段106、リンク情報作成ルール記憶手段109のいずれかは外部にあって通信回線で接続される形態であってもよい。

【0042】(実施例2)次に本発明の実施例2である明細書作成装置を説明する。実施例1と同じものについては同じ番号を付与して説明を省略する。

【0043】図4は、本発明の実施例2における明細書作成装置のブロック図、図5は明細書作成装置の動作方法を説明するためのフローチャート、図6、図7、図8は本発明の実施例2における明細書作成装置のモニタに表示する画面の一例を示す図である。

【0044】図4に示されるように、本実施例2の明細書作成装置401は、リンク情報を作成するためのキーワードを入力するキーワード入力手段402と、特許請求内容および/または発明詳細内容についてキーワードを検索する検索手段403と、検索した結果に基づいてリンク情報を生成するリンク情報生成手段105を備える。

【0045】以上の構成によって、リンク情報を必要と

するキーワードを入力し、キーワード検索の結果に基づいてリンク情報を生成することで、必要十分なリンク情報を効率的に生成することができる。

【0046】この明細書作成装置の動作方法を説明すると、図5に示されるように、入力手段107と特許請求内容記憶手段102とにより特許請求の範囲に関する特許請求内容を入力または編集して(S501)、入力手段107と発明詳細内容記憶手段103とにより特許請求内容に関する特許請求内容を入力または編集する(S502)。そして、入力手段402によってリンク情報を作成するためのキーワードを入力し(S503)、検索手段403により特許請求内容および/または発明詳細内容についてキーワードを検索し(S504)、表示手段108によって検索結果を表示手段に表示する(S505)。作業者は表示手段108と入力手段402とによって特許請求内容と発明詳細内容との関連づけを確認または指定して(S506)、リンク情報作成手段105により指定された内容を関連づけてリンク情報として作成する(S507)。そして、表示手段108と入力手段402とリンク情報作成ルール記憶手段109とによって他のキーワード検索が必要か否かを求める(S508)、完了であれば特許請求内容と発明詳細内容とリンク情報を併せて明細書情報記憶手段106に記憶する(S509)。

【0047】このとき、リンク情報を作成するためのキーワードを入力し(S503)、特許請求内容および/または発明詳細内容についてキーワードを検索し(S504)、検索結果を表示手段に表示する(S505)ときの表示手段108の表示画面例を図6、図7、図8に示す。

【0048】図6に示されるように、ある特許明細書601の請求項1に関してリンク情報を指定している。キーワードとして「請求項1」を指定し(602)、明細書中をキーワード検索した結果、「請求項1」603と「発明の実施の形態」604、「実施例」605、「発明の効果」606とに「請求項1」という語句が存在し、リンク情報を作成する語句には下線で示して自動的にリンク情報を指定する。

【0049】また、図7に示されるように、ある特許明細書701の請求項1中に記載される「〇〇手段」に関してリンク情報を指定している。キーワードとして「A手段」を指定し(703)、明細書中をキーワード検索した結果、「請求項1」702と「発明の実施の形態」704、「実施例」705、「符号の説明」706、「図面」707とに「A手段」という語句が存在し、リンク情報を作成する語句には下線で示して自動的にリンク情報を指定する。キーワードとして、「〇〇手段」の他に「〇〇装置」などを指定して、請求項に記載される語句についてはもれなくリンク情報を生成することができる。

【0050】また、図8に示されるように、ある特許明細書801の請求項中に記載される「〇〇」に関してリンク情報を指定している。キーワードとして「A」を指定し(802)、明細書中をキーワード検索した結果、「A」を含む語句の一覧表が表される(803)。各語句それぞれについて、検索場所が表示され、下線部をマウスでクリックするなど選択すれば、その場所が表示される(図示なし)。この一覧表の中で、関連する語句を選択・指定してリンク情報を作成する。

【0051】これによって、重要語句についてはもれなくリンク情報を生成することができ、「〇〇手段」と「〇〇方法」のように関連した発明についてリンク情報を生成することができる。また副効果として、「A手段」と「A部」のように同じ機能を意味するものに関して記載表現のばらつきを確認すること、「A手順」と「A手純」のように漢字変換ミスを確認することができる。また、図8では図示しないがリンク情報がまだ指定されていない語句を検索してリンク情報を指定することができる。

【0052】なお、キーワードは、入力手段402から入力する他、リンク情報作成ルール記憶手段109から指定する。リンク情報作成ルール記憶手段109には、リンク情報の作成を必須とするもの、できれば作成したほうがよいものといったランクの情報と、【請求の範囲】【実施の形態】【実施例】【効果】【図面】等の記載内容についてのルールや手順を記憶している。「請求項1」や、請求項に記載の「〇〇手段」についてはリンク情報の作成を必須であるとルールして、リンク情報作成ルール記憶手段から検索手段にキーワードを入力するので、作業者が例えばキーボード等の入力手段を用いて入力するまでもなく、短時間でリンク情報の作成ができる。

【0053】以上によって、特許請求の範囲に関する特許請求内容と、特許請求内容に関連して発明の詳細説明に関する発明詳細内容とを参照して明細書作成する時に記入もれや記載ミスを減少させることができる。例えば、請求内容と発明詳細内容とで用語が異なっている、発明詳細内容の文章と図面とで参照番号が一致していない等がなくなる。

【0054】(実施例3) 次に本発明の実施例3である明細書閲覧装置を説明する。

【0055】図9は、本発明の実施例3における明細書閲覧装置のブロック図、図10は明細書閲覧装置の動作方法を説明するためのフローチャート、図11は本発明の実施例3における明細書閲覧装置のモニタに表示する画面の一例を示す図である。

【0056】図9に示されるように、本実施例3の明細書閲覧装置901は、特許請求の範囲に関する特許請求内容を記憶する特許請求内容記憶手段902と、発明の詳細説明に関する発明詳細内容を記憶する発明詳細内容

記憶手段903と、特許請求内容と発明詳細内容とを関連づけしたリンク情報を記憶するリンク情報記憶手段904と、特許請求内容および/または発明詳細内容とリンク情報を読み出す読み出し手段905と、特許請求内容および/または発明詳細内容とリンク情報の有無とを表示する表示手段(例えばモニタ)906と、所望するリンク情報の選択を促すリンク情報選択手段907とを備える。そして、入力手段(例えばキーボード、マウス)908で選択されたリンク情報に基づいて関連づけした特許請求内容および/または発明詳細内容を表示手段906に表示する。

【0057】なお、図示しないが、特許請求の範囲に関する特許請求内容を記憶する特許請求内容記憶手段902と、発明の詳細説明に関する発明詳細内容を記憶する発明詳細内容記憶手段903と、特許請求内容と発明詳細内容とを関連づけしたリンク情報を記憶するリンク情報記憶手段904とを一つにすれば、図1の明細書情報記憶手段106に相当する。

【0058】以上の構成によって、読み出したリンク情報に基づき、関連づけされた特許請求内容と発明詳細内容から所望の部分を参照することが容易となり明細書を自在に閲覧することができる。

【0059】この明細書閲覧装置の動作方法を説明すると、図10に示されるように、読み出し手段905によって特許請求内容記憶手段902と発明詳細内容記憶手段903とリンク情報記憶手段904とから特許請求内容・発明詳細内容・リンク情報を読み出し(S100)

1)、表示手段906によって特許請求内容および/または発明詳細内容の一部を表示するとともにリンク情報の有無を表示し(S1002)、リンク情報選択手段907と入力手段908とで所望するリンク情報を選択し(S1003)、選択されたリンク情報に基づいて関連づけした特許請求内容・発明詳細内容を読み出し手段905と表示手段906とで表示する(S1005)。

【0060】このとき、特許請求内容および/または発明詳細内容の一部を表示するとともにリンク情報の有無を表示し(S1002)、所望するリンク情報を選択し(S1003)、選択されたリンク情報に基づいて関連づけした特許請求内容・発明詳細内容を表示する(S1005)ときの表示手段906の表示画面例を図11に示す。ある特許明細書1101の請求項1に関連した発明詳細内容の一部をリンク情報を用いて表示している。

表示する内容を「請求項1」に選択し(1102)、発明詳細情報の中から閲覧を希望する部分を選択し(1103)、【請求項1】1104と【発明の実施の形態】1105、【実施例】1106、【発明の効果】1107、【図面】1108とで「請求項1」とその中に含まれている手段(ここではA手段とB手段)を含む部分を表示している。図中、リンク情報を有している語句には下線で示しているが、文字色を変えたり、文字フォント

を変えたりして他の部分と区別できるようにしてもよい。例えば【請求項1】1104でA手段を選択すると、【発明の実施の形態】1105、【実施例】1106、【発明の効果】1107、【図面】1108などで「A手段」を含む部分を表示することができる。

【0061】これによって、請求項1に関連する部分だけを抽出して閲覧でき、請求項数が多いとか特許明細書の頁数の多い場合にも、特許の各請求内容とその発明の詳細説明に関する発明詳細内容とを関連づけて理解することが容易となる。

【0062】なお、図11では請求項1に関する発明詳細内容を表示したが、これ以外にもリンク情報を用いて関連した内容を表示することができる。例えば、「○○手段」について、その機能を説明する部分を表示したり、ブロック図面中のどの部分にあたるか等を表示する。

【0063】(実施例4) 次に本発明の実施例4である明細書閲覧装置を説明する。実施例3と同じものについては同じ番号を付与して説明を省略する。

【0064】図12は、本発明の実施例4における明細書閲覧装置のブロック図、図13は明細書閲覧装置の動作方法を説明するためのフローチャート、図14、図15は本発明の実施例3における明細書閲覧装置のモニタに表示する画面の一例を示す図である。

【0065】図12に示されるように、本実施例4の明細書閲覧装置1201は、特許明細書内のリンク情報を集計するリンク情報集計手段1202と、集計した結果を用いて特許請求内容および/または発明詳細内容に対して必要とするリンク情報の有無を確認させるリンク情報確認手段1203と、確認の結果を出力するリンク情報出力手段1204とを備える。また、リンク情報集計やリンク情報確認のためのルールや手順を記憶するリンク情報確認ルール記憶手段1205をリンク情報集計手段1202やリンク情報確認手段1203に接続する。

【0066】以上の構成によって、特許閲覧時に明細書内で必要とするリンク情報が揃っていることを容易に確認でき、リンク情報の欠落を防ぐことができる。

【0067】この明細書閲覧装置の動作方法を説明すると、図13に示されるように、読み出し手段905によって特許請求内容記憶手段902と発明詳細内容記憶手段903とリンク情報記憶手段904とから特許請求内容・発明詳細内容・リンク情報を読み出し(S1301)、リンク情報集計手段1202によって特許明細書内のリンク情報を集計し(S1302)、リンク情報確認手段1203によって集計したリンク情報をリンク情報確認ルール記憶手段1205のリンク情報確認ルールと照合し(S1303)、必要とするリンク情報の有無を表示手段906に表示して(S1304)、入力手段908とリンク情報選択手段907とで確認させ(S1305)、リンク情報が完成していればリンク情報出力手

段1204でリンク情報を記憶手段や表示手段、印刷手段などに出力して動作を終了する。リンク情報が完成しないなければリンク情報の作成手順(例えば図2や図5)へ移り作成する(S1306)。

【0068】このとき、特許明細書内のリンク情報を集計し(S1302)、集計したリンク情報をリンク情報確認ルールと照合し(S1303)、必要とするリンク情報の有無を表示する(S1304)ときの表示手段906の表示画面例を図14、図15に示す。

【0069】図14では、請求項毎にリンク情報の有無を示した一覧表1401と請求項に記載されている各手段毎にリンク情報の有無を示した一覧表1402である。【実施の形態】【実施例】【発明の効果】【図面】とのリンク情報の有無を示す。各請求項および各手段はリンク情報が【実施の形態】【実施例】【発明の効果】【図面】とのリンク情報を有することが必須と考え、図14の場合はリンク情報が完成していると判断する。この一覧表中に「リンク無し」があった場合には文字色を変えて作業者に警告しリンク情報を記憶させること。

【0070】「請求項」「○○手段」等の語句について、それぞれがリンク情報を必須とするか選択とするか、また、【請求の範囲】【実施の形態】【実施例】【効果】【図面】等の記載内容について、それぞれがリンク情報を必須とするか選択とするか等、リンク情報を確認するときに参照するルールや手順を図12中のリンク情報確認ルール記憶手段1205に備える。

【0071】また、図15のように、各手段、各実施例、各図面のリンク状態を詳細に示す。A手段は【実施例1】【実施例2】【実施例3】【図面1】と関連付けたリンク情報を有する。これによって、明細書内で必要とするリンク情報が揃っていることを確認できる。また副効果として、明細書の全体構成を把握することもできる。例えば図15を見れば、【実施例1】の図面が【図面1】と【図面2】の2図面であること、A手段とB手段とは【実施例1】【実施例2】【実施例3】に共有であるがC手段は【実施例3】にのみ構成されること等が一目で理解できる。

【0072】なお、以上は特許明細書閲覧装置として説明したが、リンク情報集計手段1202とリンク情報確認手段1203とリンク情報出力手段1204とリンク情報ルール記憶手段1205とを特許明細書作成装置に備えて、特許を作成時に明細書内で必要とするリンク情報が揃っていることを確認し、リンク情報の欠落を防ぐものでもよい。

【0073】なお、特許請求内容記憶手段902、発明詳細内容記憶手段903、リンク情報記憶手段904、リンク情報確認ルール記憶手段1205のいずれかは外部にあって通信回線で接続される形態であってもよい。

【0074】(実施例5) 次に本発明の実施例5である

明細書閲覧装置を説明する。実施例3、4と同じものについては同じ番号を付与して説明を省略する。

【0075】図16は、本発明の実施例5における明細書閲覧装置のブロック図、図17は明細書閲覧装置の動作方法を説明するためのフローチャート、図18、図19は本発明の実施例5における明細書閲覧装置のモニタに表示する画面の一例を示す図である。

【0076】図16に示されるように、本実施例5の明細書閲覧装置1501は、特許明細書内のリンク情報を集計するリンク情報集計手段1202と、集計した結果を用いて特許明細書の構成情報を作成する構成情報作成手段1602と、作成した構成情報を出力する構成情報出力手段1603とを備える。また、リンク情報集計や構成情報作成ならびにリンク情報分析のためのルールや手順を記憶するリンク情報確認ルール記憶手段1205をリンク情報集計手段1202や構成情報作成手段1602に接続する。

【0077】以上の構成によって、リンク情報から明細書の構成情報を作成するので、特許作成時または閲覧時に明細書の請求項の構成等を容易に確認でき、明細書を効率的に閲覧・確認することができる。

【0078】この明細書閲覧装置の動作方法を説明するど、図17に示されるように、読み出し手段905によって特許請求内容記憶手段902と発明詳細内容記憶手段903とリンク情報記憶手段904とから特許請求内容・発明詳細内容・リンク情報を読み出し(S1701)、リンク情報集計手段1202によって特許明細書内のリンク情報を集計し(S1702)、集計したリンク情報をリンク情報確認ルール記憶手段1205のリンク情報分析ルールと照合し(S1703)、構成情報作成手段1602で作成した構成情報を表示手段906に表示して(S1704)入力手段908とリンク情報選択手段907とで確認させ(S1705)、構成情報が完成していれば構成情報出力手段1204で構成情報を記憶手段や表示手段、印刷手段などに出力して動作を終了する。完成していなければリンク情報の作成手順(例えば図2、5)へ移り作成する。

【0079】このとき、特許請求内容・発明詳細内容・リンク情報を読み出し(S1701)、特許明細書内のリンク情報を集計し(S1702)、集計したリンク情報をリンク情報分析ルールと照合し(S1703)、構成情報を作成・表示する(S1704)ときの表示手段906の表示画面例を図18、図19に示す。

【0080】図18では、請求項のあいだで関連づけしたリンク情報を基にして、各請求項の関係(構成情報)を図示したものである。「・・した請求項〇記載の・・」というように請求項に引用関係がある場合、引用元の請求項と引用先の請求項とのあいだで「請求項〇」という語句にリンク情報を有し、それを分析することで図中1801の縦軸のように上位・下位の請求項関係を図

示することができる。また、「□□装置」の請求項と「□□方法」の請求項とで「□□」という語句にリンク情報を有し、それを分析することで図中1801横軸のように対象やカテゴリーの異なる請求項関係を図示することができる。

【0081】また、図19のように、請求項のあいだで関連づけしたリンク情報を基にして、「□□装置」や「○○手段」の関係を図示する。図中1901は「□□装置」の請求項を対象にして、「□□装置」「A手段」「B手段」「C手段」のリンク情報を示したものである。請求項1、請求項2、請求項3は発明の対象が同じ「□□装置」であること、「A手段」と「B手段」は請求項1で記載され請求項3で引用されていること、「B手段」は請求項2で記載され請求項3で引用されていること等が一目で理解できる。図中1902は「□□方法」の請求項を対象にして、「□□方法」「A手順」「B手順」「C手順」のリンク情報を示したものである。

【0082】「請求項」「□□装置」「○○手段」等の語句に着目してリンク情報を分析し、図18や図19のように出力するルールや手順は図16中のリンク情報確認ルール記憶手段1205に備える。

【0083】なお、以上は特許明細書閲覧装置として説明したが、リンク情報集計手段1202と構成情報作成手段1602と構成情報出力手段1603とリンク情報ルール記憶手段1205とを特許明細書作成装置に備えて、特許を作成時に明細書内で必要とするリンク情報が揃っていることを確認し、リンク情報の欠落を防ぐものでもよい。

【0084】これによって、リンク情報の集計結果を見れば明細書に重要な記載もれや記載ミスがないかを確認でき、リンク情報の分析結果を見れば明細書の構成概要を一目で把握することができ特許明細書の閲覧を効率的に行うことができる。また、各請求項について実施例や効果の記載部分が明確になる。

【0085】なお、以上に説明してきたようにリンク情報を特許明細書が備えることとなれば、従来の特許明細書に必須となっていた図面符号の記載は不要となる。例えば、【実施例】で「A手段31」の記載に対応して、【図面】で「A手段31」、「図面の符号の説明」に「31 A手段」と記載しているが、【実施例】と【図面】と【符号の説明】のあいだでA手段についてリンク情報があればよい。

【0086】(実施例6) 次に本発明の実施例6である特許業務システムを説明する。

【0087】図20は、本発明の実施例6における特許業務システムのブロック図を示す図である。この特許業務システム2001は、今まで説明してきた明細書作成装置2002と明細書閲覧装置2003とを含む特許業務端末2004と、明細書作成装置2002で作成され

た複数の特許明細書ならびに明細書閲覧装置2003で閲覧するための複数の特許明細書を記憶する特許業務サーバー2005とを、通信ネットワークで相互接続するシステムを実現することにより特許業務全体の効率化を図るものである。

【0088】特許業務端末2004は、明細書を作成して特許業務サーバー2005に送信する明細書作成装置2002と、特許業務サーバー2005に記憶される明細書を閲覧する明細書閲覧装置2003と、特許業務サーバー2005と明細書作成装置2002との通信ならびに特許業務サーバー2005と明細書閲覧装置2003との通信を仲介して実質的に送受信作業を行なう端末側送受信装置2006、特許業務端末内の業務ログを記憶する業務ログ記憶装置2007とからなる。明細書作成装置2002や閲覧装置2003は1台に限らず複数台でもよい。業務ログには、明細書端末装置2002や閲覧装置2003の使用記録(日時、使用者名等)、特許業務サーバーとの通信記録(日時、通信量等)が含まれる。

【0089】一方、特許業務サーバー2005は、複数の明細書を記憶する記憶装置または記憶媒体(光磁気ディスク等で実現)2008、特許業務サーバー2005と特許業務端末2002との通信を仲介して実質的に送受信作業を行なうサーバー側送受信装置2009と、明細書の閲覧や送受信に伴う課金情報を記憶する課金情報記憶装置2010とからなる。そして、記憶装置または記憶媒体2008は複数の明細書情報(特許請求内容と発明詳細内容とリンク情報)を記憶する明細書情報記憶手段2011と、特許検索のためのインデックス情報を(明細書番号や抽出したキーワード群など付加情報)を記憶する明細書インデックス情報記憶手段2012とを備える。

【0090】加えて、業務ログ記憶手段2007は明細書作成装置2002から出力されるリンク情報や構成情報報を記憶して各明細書のリンク情報や構成情報の完成度や充実度の評価を作成者毎などに記録してもよい。端末側送受信手段2006はリンク情報や構成情報の完成度・充実度が低い明細書については送信や受信を拒否するなど制限を設けることが考えられる。

【0091】さらに課金情報にこれらの完成度や充実度の情報を含めて完成度・充実度が高い場合には作成者や送信者に報奨金を支給し、完成度・充実度が低い場合には完成度を高めるための費用を請求するような課金情報記憶装置も考えられる。

【0092】なお、業務ログ記憶手段や課金情報記憶手段は特許業務サーバー2005側に記載して説明したが、特許業務端末2004側に設けてよい。

【0093】このような特許業務システムを構築すれば、特許明細書作成装置で作成したリンク情報つきの特許明細書を電子ファイルとして直ちに特許業務サーバー

に蓄積できる。そして、そのような特許明細書の電子ファイルを特許業務サーバーで複数蓄積し所望の明細書を検索して、特許明細書閲覧装置を用いてリンク情報によって効率的に作成確認と閲覧ができる。

【0094】このように、リンク情報を備えた特許明細書の電子ファイルを複数記憶する記憶媒体(DVDやCD等)あるいは記憶装置(HDD等)で特許業務システムを構成すれば、特許明細書を自由自在に扱うことができる。このような特許業務システムを構築すればリンク情報つきの特許明細書(電子ファイル)の有用性を高めることができる。

【0095】また、リンク情報を備えた特許明細書の電子ファイルを送信または受信する送受信装置で特許業務システムを構成すれば、特許明細書を蓄積した特許業務サーバーと、それを作成・閲覧する特許業務端末とをネットワークや通信回線によって接続したデータベースシステムを構成することができる。例えば電子メールで電子ファイルを送信または受信する。このような特許業務システムを構築すればリンク情報つきの特許明細書(電子ファイル)の有用性を高めることができる。

【0096】また、これらの装置をコンピュータに実行させるためのプログラムやデータといった情報集合体を実現することで、家庭や会社にある汎用コンピュータで容易に実現することができる。また、そのプログラムやデータを記録した記録媒体を用いることでソフトウェアを汎用コンピュータにインストールする作業が容易にできる。

【0097】以上のように、本発明は、コンピュータにより特許明細書を扱う電子ファイルにおいて、特許請求の範囲に関する特許請求内容と発明の詳細説明に関する発明詳細内容とを関連づけしたリンク情報を備えた電子ファイルであり、特許作成や作成内容の確認時、および閲覧時においてリンク情報を活用して効率的に作業することができる。

【0098】このときのリンク情報はHTMLやXML、JavaScript、VBScript、Javaなどのコンテンツ記述言語が効果的である。これらはインターネット等において標準的な記述言語であり、特許業務システムにおいてネットワーク部をインターネットで容易に実現でき、各装置をパソコンを用いて容易に実現することができる。

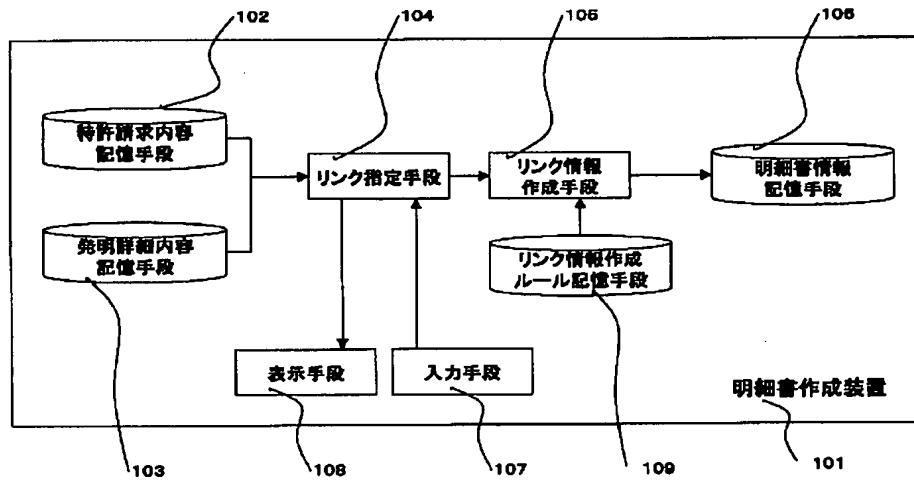
【0099】

【発明の効果】このように、本発明によれば、特許請求の範囲に関する特許請求内容と、特許請求内容に関する発明の説明に関する発明詳細内容とを関連づけるリンク情報を備え、特許明細書を作成するとき、確認するとき、閲覧するときにおいてリンク情報を活用するので、特許明細書の作成および閲覧を効率的に行い特許業務を支援することができる。

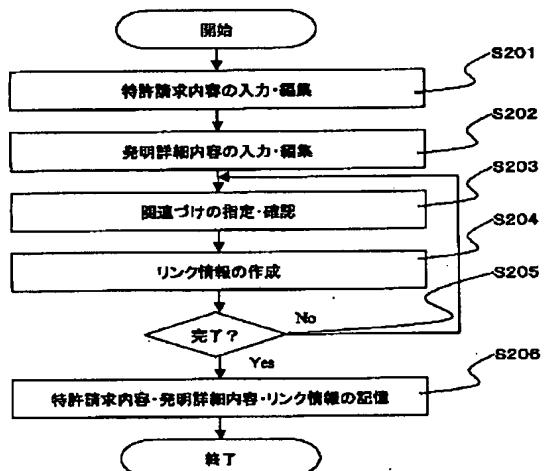
【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例1における明細書作成装置のブロック図	104 リンク指定手段
【図2】同明細書作成装置の動作を示すフローチャート	105 リンク情報作成手段
【図3】同明細書作成装置の表示画面を示す図	106、2011 明細書情報記憶手段
【図4】本発明の実施例2における明細書作成装置のブロック図	107、908 入力手段
【図5】同明細書作成装置の動作を示すフローチャート	108、906 表示手段
【図6】同明細書作成装置の表示画面を示す図	109 リンク情報作成ルール記憶手段
【図7】同明細書作成装置の表示画面を示す図	402 入力手段(キーワード入力手段)
【図8】同明細書作成装置の表示画面を示す図	403 検索手段
【図9】本発明の実施例3における明細書閲覧装置のブロック図	901、1201、1601、2003 明細書閲覧装置
【図10】同明細書閲覧装置の動作を示すフローチャート	904 リンク情報記憶手段
【図11】同明細書閲覧装置の表示画面を示す図	905 読み出し手段
【図12】本発明の実施例4における明細書閲覧装置のブロック図	907 リンク情報選択手段
【図13】同明細書閲覧装置の動作を示すフローチャート	1202 リンク情報集計手段
【図14】同明細書閲覧装置の表示画面を示す図	1203 リンク情報確認手段
【図15】同明細書閲覧装置の表示画面を示す図	1204 リンク情報出力手段
【図16】本発明の実施例5における明細書閲覧装置のブロック図	1205 リンク情報確認ルール記憶手段
【図17】同明細書閲覧装置の動作を示すフローチャート	1602 構成情報作成手段
【図18】同明細書閲覧装置の表示画面を示す図	1603 構成情報出力手段
【図19】同明細書閲覧装置の表示画面を示す図	2001 特許業務システム
【図20】本発明の実施例6における明細書業務システムのブロック図	2004 特許業務端末
【図21】従来例の明細書作成装置のブロック図	2005 特許業務サーバー
【符号の説明】	2006 端末側送受信装置
101、401、2002 明細書作成装置	2007 業務ログ記憶装置
102、902 特許請求内容記憶手段	2008 記憶装置または記憶媒体
103、903 発明詳細内容記憶手段	2009 サーバー側送受信装置
	2010 講金情報記憶装置
	2012 明細書インデックス情報記憶手段
	2101 文書格納部
	30 2102 文字列抽出ルール保持部
	2103 文字列抽出部
	2104 符号添付ルール保持部
	2105 符号添付部
	2106 文書出力部

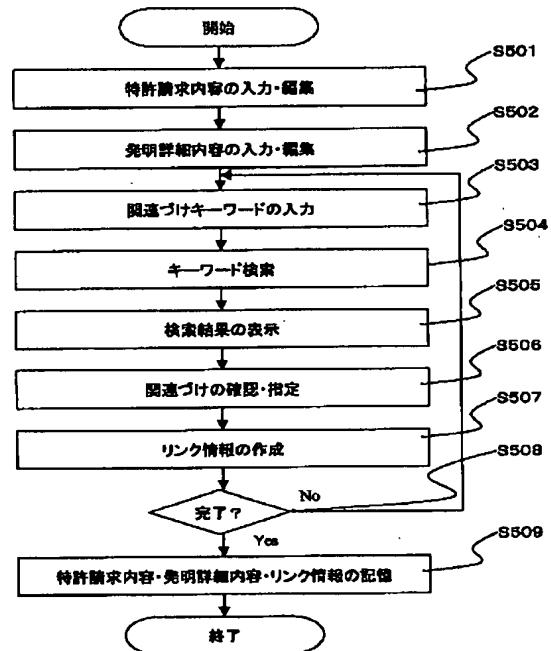
【図1】



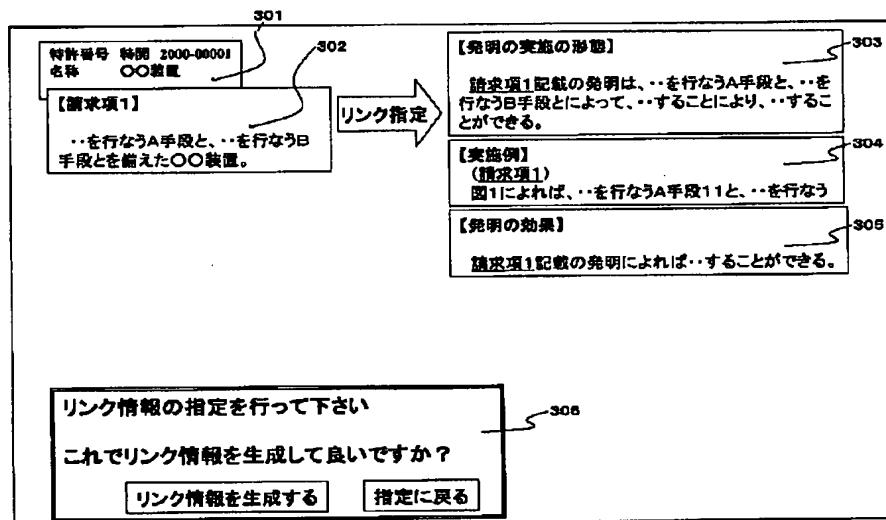
【図2】



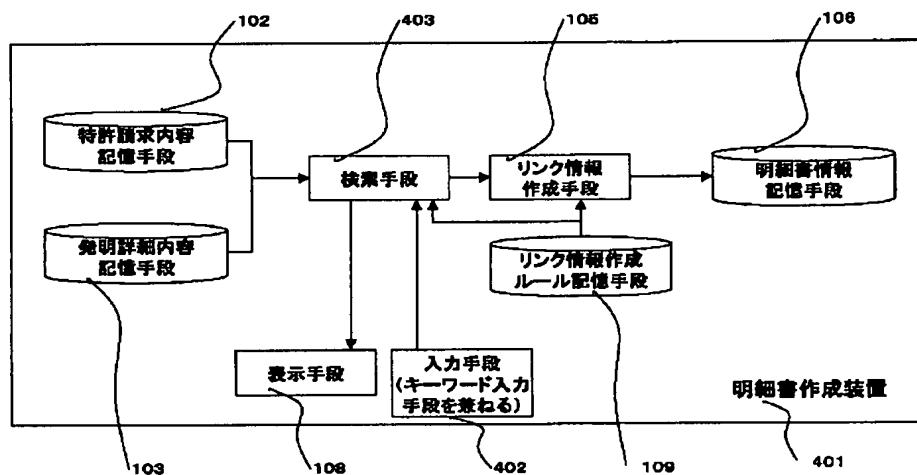
【図5】



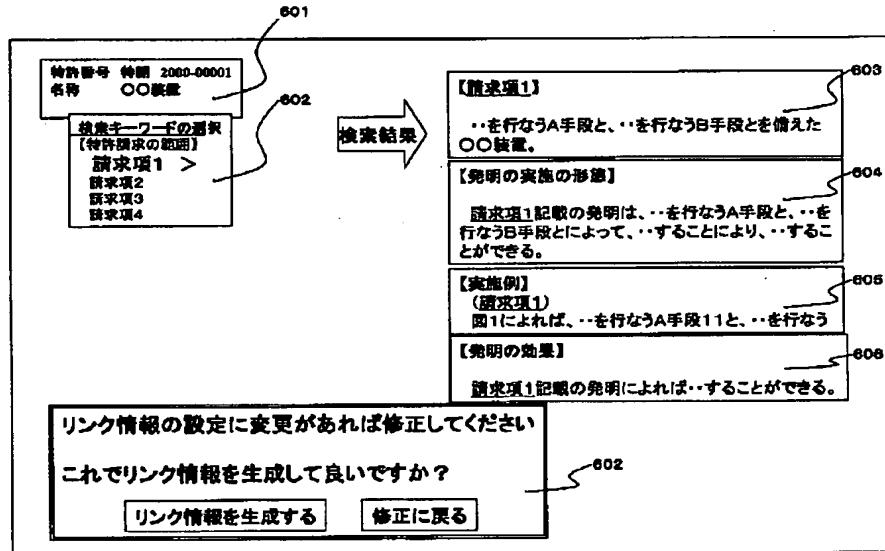
【図3】



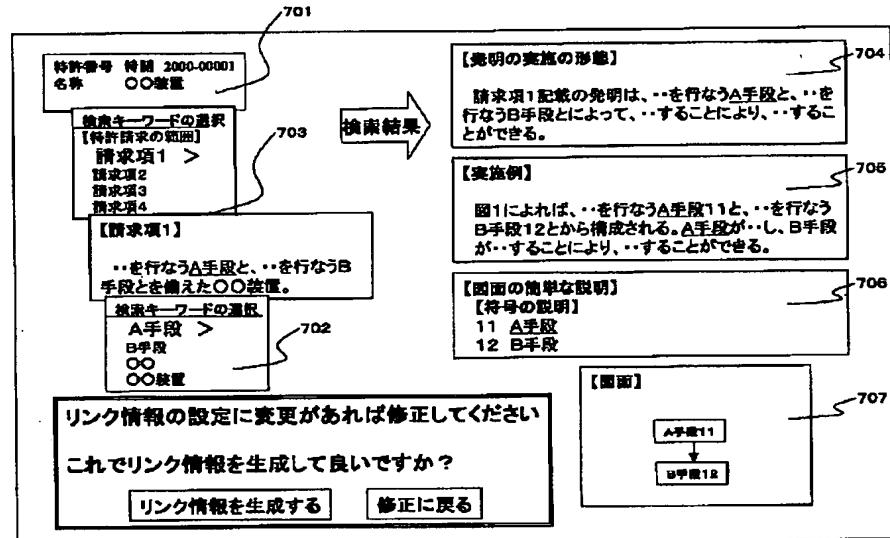
【図4】



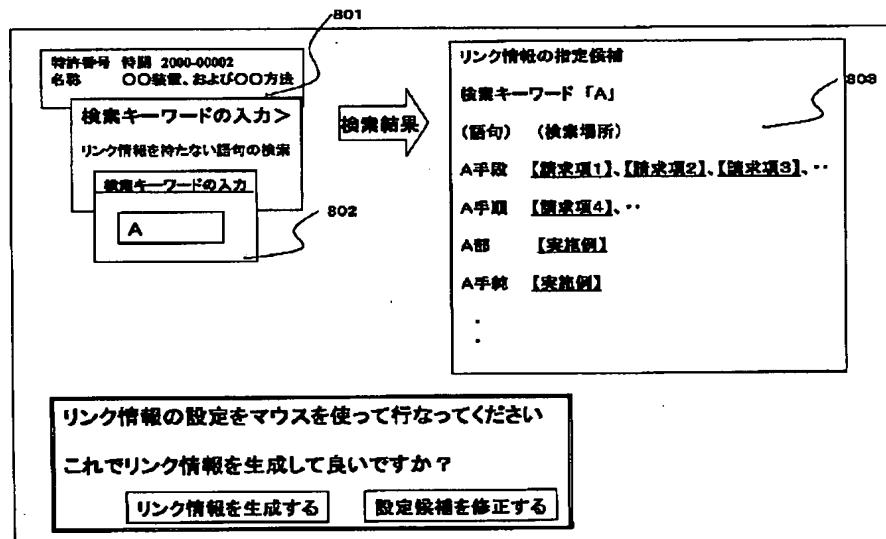
【図6】



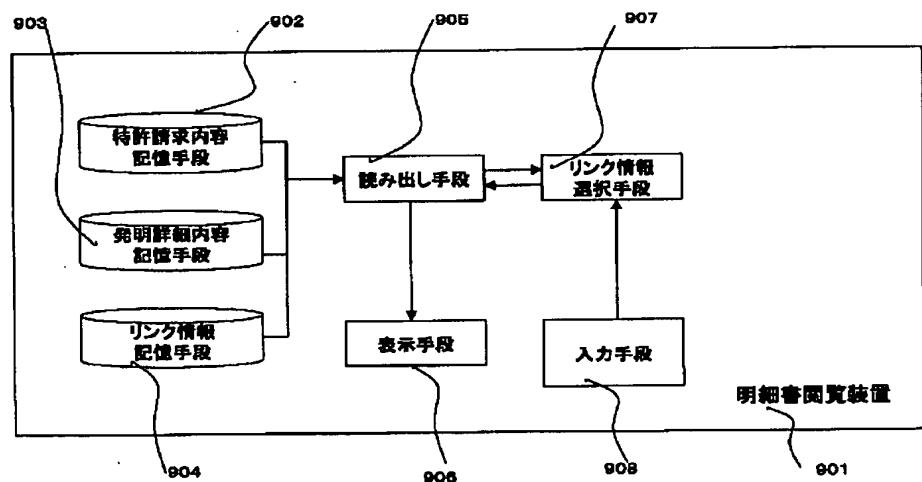
【図7】



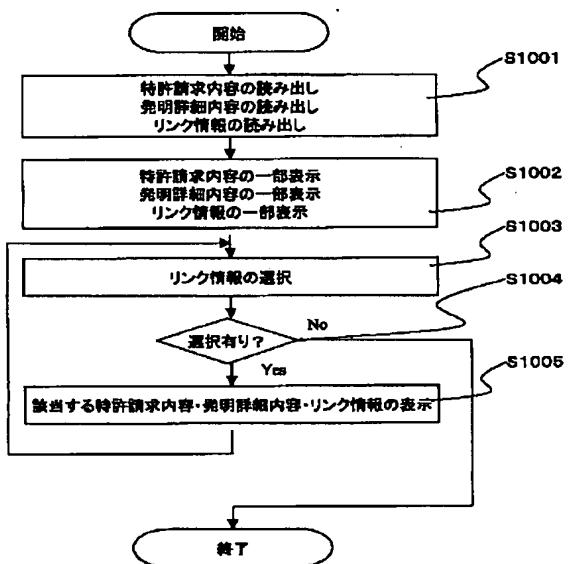
【図8】



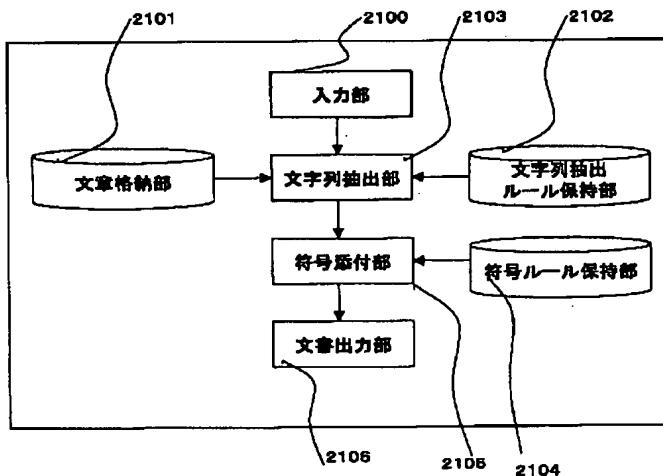
【図9】



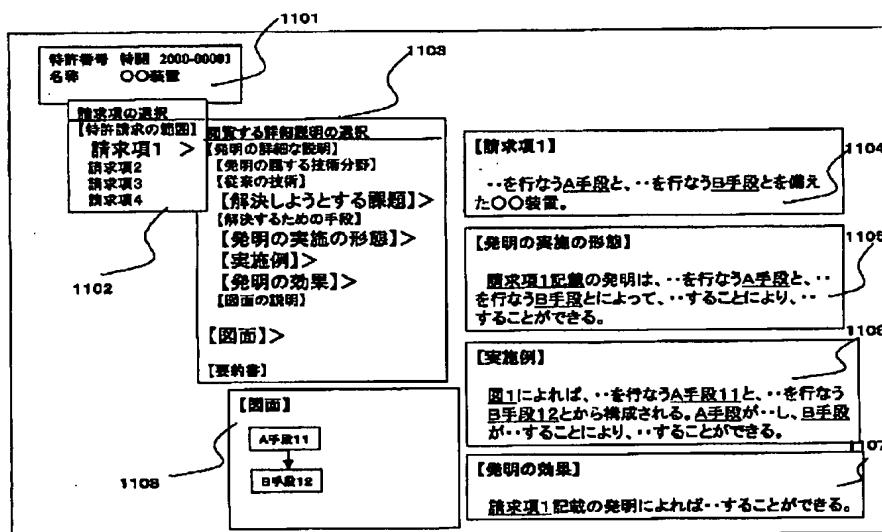
【図10】



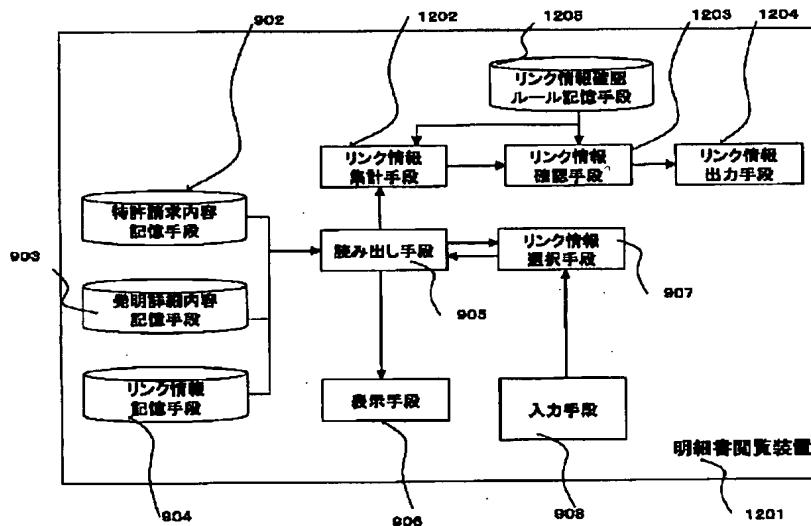
【図21】



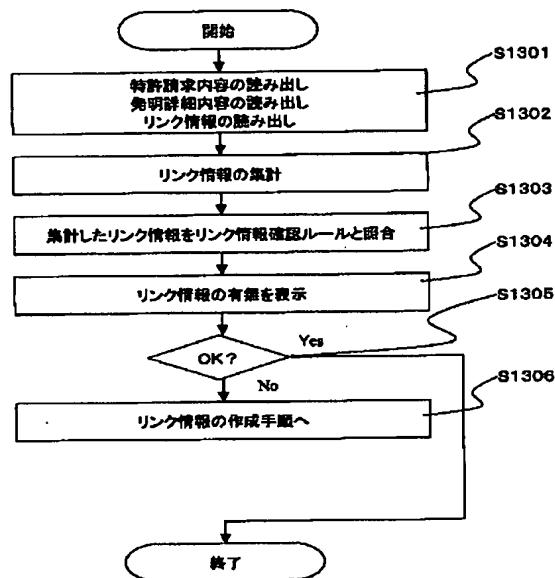
【図11】



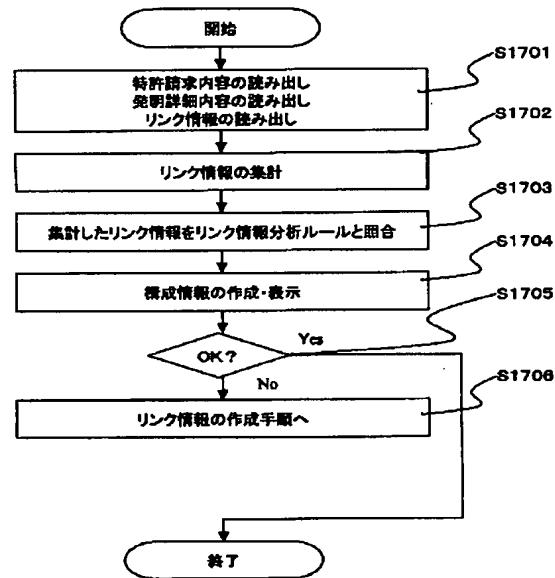
【図12】



【図13】



【図17】



【図14】

リンク情報集計結果(a)

	【実施の形態】	【実施例】	【発明の効果】	【図面】
請求項1	リンク有	リンク有	リンク有	リンク有
請求項2	リンク有	リンク有	リンク有	リンク有
請求項3	リンク有	リンク有	リンク有	リンク有

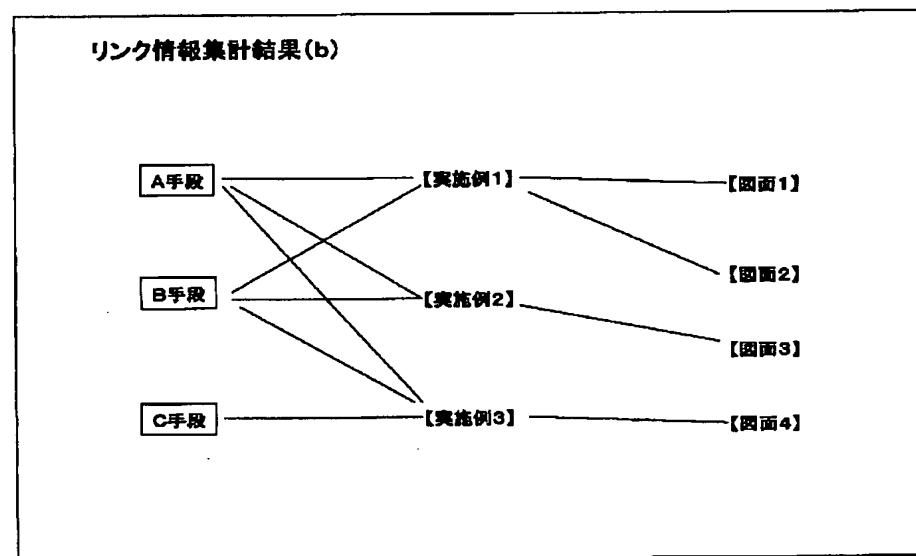
  

	【実施の形態】	【実施例】	【発明の効果】	【図面】
A手段	リンク有	リンク有	リンク有	リンク有
B手段	リンク有	リンク有	リンク有	リンク有
C手段	リンク有	リンク有	リンク有	リンク有

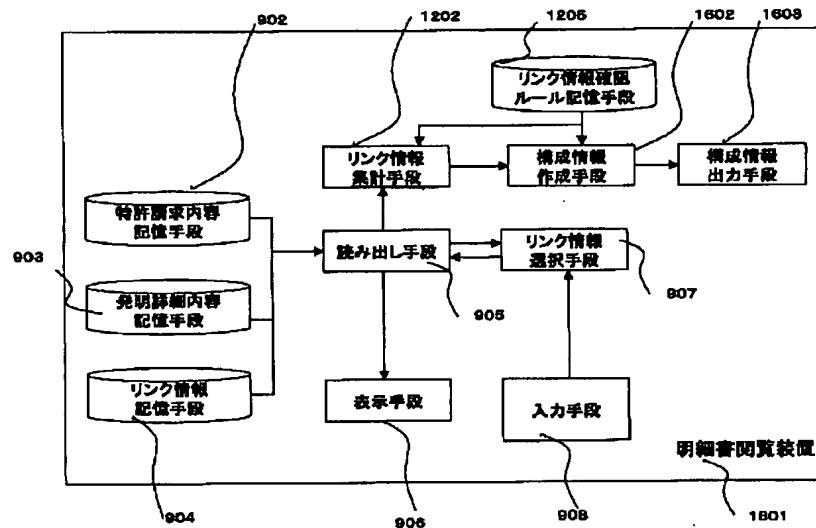
1401

1402

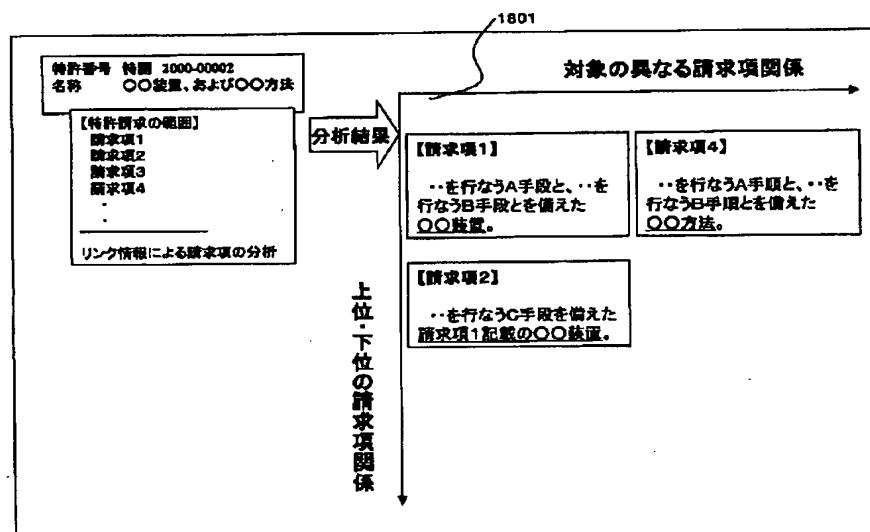
【図15】



【図16】



【図18】



【図19】

請求項分析結果				
	口口装置	A手段	B手段	C手段
請求項1	リンク元	リンク元	リンク元	記載なし
請求項2	請求項1 にリンク	記載なし	記載なし	リンク元 (新規)
請求項3	請求項1 にリンク	請求項1 にリンク	請求項1 にリンク	請求項2 にリンク
				1801
請求項4	リンク元	リンク元	リンク元	記載なし
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
				1802

【図20】

